

科目名称:	ファッションと生活	
担当者名:	中村 裕美子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>ファッションとは本来「人間の創造的行為」で、ライフスタイルを包括するものです。「どんな時に何を着るべきか?」「自分に似合う服は何なのか?」見た目はその人の内面を表したものです。イメージを「色・形・素材」に落とし込む演習を重ねて、ファッションスタイルを考察します。また、色の基本を学ぶ中に色彩心理を生活に活かすことも含めます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>「衣・食・住・こころ」の全てに「色彩」の効果を取り入れた選択ができるようになることを目指します。自分の体型、似合う色を客観的にとらえつつ、TPO に応じた最適なファッションスタイルでセルフプロデュースできることを目標にします。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP (3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP (4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP (1)					0
ビジネスDP (2)					0
ビジネスDP (3)			40	60	100
ビジネスDP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 パーソナルカラリスト	《経験年数1》 26年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス・言葉の代わりに色で自分を表現「ファッション」「似合う」をディスカッション	カラーカードを使って自己紹介できるようにしておくこと	20分
第2回 服の知識(シルエット、素材、柄、品質表示、サイズ、採寸方法)	テキストp12～32予習、自分の持つアイテム調査する	30分
第3回 ファッションスタイル、ファッションイメージ(グループワーク)	テキストp36～48予習、自分のファッションイメージを決める	30分
第4回 体型と体型カバーのテクニック、自分の体型を知る(グループワーク)	テキストp52～60予習、自分の体型に合う服を考える	30分
第5回 色彩学の基礎、カラーアンダートーンシステム(実習)	テキストp74～81予習、アンダートーンの種類を身近なもので3つ調査	30分
第6回 パーソナルカラー診断実習(一人一人の似合うを調査)	自分色の服や小物の調査	30分
第7回 パーソナルカラー診断実習(一人一人の似合うを調査)	自分色の服や小物の調査	20分
第8回 パーソナルカラー診断実習(一人一人の似合うを調査)	パーソナルカラーを活かしたファッションアイテムの調査を行なう	30分
第9回 配色の基本(色合わせトレーニング)	テキストp84～86予習、配色課題仕上げ	30分
第10回 TPOとメンズウエア	テキストp64～70、p88～98予習	30分
第11回 ヘアメイク(自分のメイク道具持参、実習)	テキストp102～108 予習	30分
第12回 ファッションの歴史、流行色、環境への取り組み	テキストp110～116 予習	20分
第13回 自分のなりたいファッションイメージをビジュアル化する実習	グループワーク実習の準備(雑誌切り抜きやネットからのプリントアウトをしておく)	20分
第14回 セルフプロデュース(TPO設定しファッションスタイルを発表するためのディスカッションと実習)	自分のファッションスタイルを考えておく *持参物のり・はさみ スタイル研究用の衣類、アクセサリなど	40分
第15回 まとめ 自分のファッションスタイル研究発表	発表準備 *持参物 発表に必要なものすべて	40分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、予習や考えておくことを小レポートにまとめておくこと。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業への積極的関与 30% 課題への取り組みおよびその評価 40% 期末の研究発表 30%

課題に対するフィードバック

授業内で課した課題に対してコメントを返す。

教科書・参考書

教科書：基礎からわかるパーソナルスタイリング著者日本パーソナルスタイリング振興協会・発行(株)学研プラス
教材：CUSカラーカード185 (株)カラースペースワム 発行